

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500078		
法人名	医療法人みずほ会		
事業所名	グループホームなかとさ		
所在地	高知県高岡郡中土佐町上ノ加江字ヲモイデ706番地1		
自己評価作成日	平成27年1月8日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺は山や田畑に囲まれた静かな環境にあり、町中からも遠くなく、隣は郵便局、前には農協や役場の支所があり地域の方の散歩コースにもなっており、散歩の途中に立ち寄って話して行かれる方もいる。近くで畑をしている方より、良く野菜の差し入れがある。地域の小中学校・保育園からは、行事ごとに案内を頂き運動会や文化祭、学習発表会にはできるだけ参加している。施設の秋祭りを地域の行事の一つとして、住民の皆さまに楽しんで頂けるようこれからも取り組んで行きたいと思っている。在宅高齢者の自宅訪問も、時間のあいた時に出かけている。地域包括支援センターや社会福祉協議会にも声をかけ、見守り支援の必要な方がいれば、連絡を頂ければ何時でも支援すると話している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=3992500078-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設後4年近くになり、地域にとっての大切な社会資源になっている。地域交流と地域貢献を理念に掲げ、積極的に地域との関係づくりに努めている。学校や保育園からは運動会や学習発表会、文化祭等の案内、町内会からは敬老会や町民運動会の案内があり、多くの利用者が参加して交流している。また、事業所主催の秋祭りを地域の行事として位置づけ、広く住民に案内し、100人以上の住民が参加する大きなイベントになっている。この祭りを楽しみにする住民も多くなり、開催日時の問い合わせもある。

地域貢献として地域包括支援センターと連携しながら、管理者が独居老人宅を訪問し、健康状況の把握や相談ごとに応じ、状況を地域包括支援センターに伝えている。事業所は地域の中心地から比較的近く、便利な場所にあるので、住民は気軽に立ち寄り、野菜等の差し入れもある。具体的な年間目標を作成して、職員は、挨拶、笑顔、自立支援を心がけ、安心して生活できる事業所づくりに取り組み、利用者及び家族の信頼を得ている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフ会やサブ会で理念の浸透を図り、日々のケアを振り返り実践に繋げている。年頭には年間目標を見直し、より良い施設づくりを目指している。	利用者の思いや生活習慣を大切に、地域と共に自分らしく安心した生活ができる場を提供するという理念を、開設時に職員と一緒に作成している。職員会議等でケアを振り返るときは、常に理念の実践の有無を確認し、また、理念を具体化した年間目標を立てて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週木曜日はモーニングの日として近所の喫茶店に出かけるようにしている。近所の方の自宅の庭にも、花見に出かけたりと交流を深めている。地域の敬老会や盆踊りにも全員で参加させて頂き、楽しいひとときを過ごしている。懐かしい顔見知りの方に出会い、話に花が咲いた。	町内会は未加入であるが広報が配布され、職員からも地域情報を得ている。地域の防災訓練、一斉清掃には常に参加している。町の敬老会には利用者全員で参加し、学校や保育園行事にも参加している。事業所の秋祭りには、100人以上の住民が参加して交流している。	地域住民との交流関係が築かれているが、一般世帯と同様に地域の一員として交流していくために、町内会への加入も検討することを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会主催の権利擁護の劇に職員が参加させてもらったり、独居の方の見守りなどを行っている。公民館にも認知症についての講演等も行っていくので、必要時には連絡をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では利用者状況や行事報告、研修報告等を行い、運営推進委員さんからの意見を頂き、より良いサービスの向上に努めている。	委員には地域代表が多く、消防署や警察駐在所職員もメンバーになっており、多様な立場からの意見交換が出来ている。会議以外でも事業所の困りごとや相談への助言・協力がああり、サービスの向上に結びつけている。議事録は家族に送付し、周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のほか、健康福祉課や地域包括支援センターとも日頃から連絡を取り、良い関係性を築いている。	町担当者とは運営推進会議における情報提供や助言以外にも、日頃から相談しやすい関係を築いている。年2回、町主催の事業所連絡会があり、意見交換をしている。また、感染症など時期に見合った研修の案内もあり、参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に運営規程で身体拘束を禁止しており、夜間は防犯上やむを得ず施錠しているが、早出勤務者が出勤した時点で施錠はせず開放している。身体拘束をしないケアについては、全職員に周知徹底している。安全確保のため、やむを得ず対応せざるを得ない時には、家族に説明し同意を得るなど、慎重に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの重要性を職員に教育しており、職員も認識できている。7時から19時半までは玄関は施錠せず、利用者の行動を見守っている。夜間のみ安全上、センサーを設置する利用者については、家族に説明し理解を得て使用している。職員は言葉による心理的拘束がないよう、言葉遣いに気をつけ、適切を欠く言動はない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修会は法人内でもスキルアップ研修に取り入れ、全職員が受けられるよう取り組み、職員への虐待防止の強化を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度等研修会に参加し、制度を理解し、スタッフ会で共有していただけるよう法人内研修の見直しを図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には詳細な説明を行い、理解や納得を得た上で契約を結んでいる。改定時にも書面や電話連絡を行い、理解し納得を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回以上家族会を開催し、話し合いの時間を設け、意見や苦情を出して頂き、意見を集約し運営推進会議でも報告している。運営推進会議の議事録は、その都度家族さんに送付している。また玄関には意見箱を設置している。	日頃のケアでは、利用者の思いを汲み取ること意識的に関わっている。年3回、半数程度の参加で家族会を開催しており、出来る限り家族の思いや意向を把握することに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の担当者会やスタッフ会で意見を出し合うことで運営に反映している。日々の中でも気づきがあれば、職員は意見を管理者に伝え、次回の会で話し合うようにしている。	開設以来の勤務職員が多く、些細なことでも意見を出し合い、改善を図る環境が出来ている。特に、ケアのあり方については意見を活発に出し合い、改善に努めている。また、責任の所在を明確にする為、職員の提案で美化委員等を作り、環境美化にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の見直しを実施しているところで、今年4月から適応出来るよう現在取り組んでいる。職員が働きやすい環境づくりや、やりがいのある職場づくりを目指して取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修マニュアルも現在見直し中で、各事業所の管理者で組織する管理者会で検討中である。4月より運用出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや居宅、介護施設等とは行き来をしたり、電話連絡をし話し合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で聞き漏らしていることなど、入居後も本人の希望や要望を傾聴し、本人の望むことを少しでも可能にできる事で、安心出来る空間を確保し、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との面談時にお話をよく聞き、希望を受け止め、信頼関係を築いている。入居後も面会時等の機会にコミュニケーションを図り、ご家族の気持ちを受け止め、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には現在の状況を聞き、早急な対応が必要な際には他事業所を紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームを家と考え、家族の一員として言葉がけにも配慮している。アットホームな雰囲気や大事にしながら、お互いが助け合っていると思えるように、自分では出来ることはお願いし暮らしを共にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	その時々々に状態の報告を行い、家族の訪問時には家族と利用者が共に楽しく過ごせるような空間づくりを心がけている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	地域の夏祭りや運動会に出かけ、顔見知りの方々と楽しく話をされる機会を持っている。自宅の鍵を預かっている方もおられ、年に数回自宅への外出支援もしている。また馴染みの場所にも外出支援を行っている。今年は家族の葬儀にも参列出来た方がおられた。	入居前の生活との継続性を大切にしており、生活歴の把握と理解に努め、趣味や、楽しい行事、好きな場所などのつながりを支援している。地域の祭りや運動会への参加、自宅への外出支援のほか、馴染みの喫茶店や美容室の利用を継続している。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	認知症レベルや性格などを理解し、交流を図れるような場面づくりや関係性を保ちながら共に生活できるよう支援している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退居後も他施設に面会に行ったり、年賀状や秋祭りの案内状を送って関係を保っている。入院・退居などの時にも家族と連絡を取ったり面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	個別ケア時に本人の思いをじっくり傾聴し、希望、意向を把握し共有している。本人の希望に添える環境に近づけるよう職員全員で検討し支援している。	生活支援のうえで、利用者の暮らし方への意向が大切なことを認識しており、利用者から思いを傾聴して介護計画に結び付けている。自分の要望や意見を言えない利用者には、家族から過去の趣味や生活を聞き取り、思いに沿える生活を職員全員で検討している。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入居時は本人、家族、担当ケアマネジャー等から、生活歴や趣味等の把握に務めている。また家族とも話しやすい関係を築き、昔の話などを聞きサービスに活かせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者会や月末評価などで、現在の細かい変化も把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画期間は3ヶ月を基本とし、毎月モニタリングを実施し3ヶ月ごとに担当者会を開催している。家族が出席できない時には電話連絡で意向を確認し、計画書に反映できるよう取り組んでいる。また状態が悪化したり、入院後等変化のあるときにはその都度見直しを行っている。	利用者や家族の思いや意向、その人らしい生活の継続性を担当者会で検討しながら介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3カ月毎に担当者会を開催して追加、修正を行っている。担当者会には家族に参加を呼び掛けるほか、面会時や電話で意向を聞き取り、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の変化や気づき等を細かく記録で残すようにしている。また、申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有を図り介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて受診援助や、帰宅支援、買い物支援等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人部の方々の草引きボランティアや、花植え等の協力を得ている。施設の秋祭りは、地域の方々や運営推進会議の方に助けて頂き、毎年沢山の地域の方に来て頂き盛大に開催出来ることを職員一同感謝しているし、今後に繋げる励みとなっている。毎月、理美容の訪問支援をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、ホームでは往診体制で受診し、薬は薬局より薬剤師が配達、支払いは職員が対応して居ることを伝え、本人、家族に選択して頂いている。歯科等協力機関には往診や受診を行い、他の医療機関への受診には家族の協力を得ているが家族の状況に応じて職員が対応している。	入居時にかかりつけ医の確認を行い、希望を継続している。ほとんどの利用者が母体法人である診療所の往診を受け、健康管理を行っている。専門医は希望の医療機関を継続し、家族による対応を基本としている。受診結果は家族からの報告も含め、記録して職員で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化があれば、看護師と24時間連携がとれる体制がある。週1回の訪問看護を受け、書面や口頭で相談し、適切な対応や助言を得ている。連携医療機関にも訪問看護の記録をファックスし、医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人が安心して療養出来るよう情報を提供し、カンファレンスにも参加している。職員も可能な限り面会を行い、ストレスを回避できるよう努めている。家族の状況によってはホームが家族の代行をしたり、医療関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化やターミナルケアの対応を指針に沿って説明し、同意を得ている。病状の変化に応じて主治医、家族、ホームで話し合いを持ち、方針を共有しながら支援するよう努めている。	入居時に、重度化及び看取りに関する指針により、対応を説明している。終末期の選択は、利用者・家族の気持ちを優先し、これまで事業所で1例の看取りを経験している。事例では、家族が付き添い、医師のほか6人の職員が立会って最期を看取ることが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については常に職員と話し合いを行い、慌てず対応するよう指導している。2年に1度は救急蘇生法を消防署に依頼し、講習を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心として常に災害に対する意識付けをしている。地震や火災に備えての訓練を定期的に行っており、同時に消防署の点検も受けている。地震発生時この地区は津波の浸水区域であるため、備蓄品は津波のこない職員の自宅倉庫の一角を借り備蓄している。食料品は消費期限を確認し、期限切れになる前に運営推進会議などで試食して頂く予定である。	事業所は地震による津波到達時間が12分と想定されており、定期的に避難・救命の自主訓練を実施している。防火訓練は年2回実施し、地域にも呼びかけ数名の参加があり、消防署から助言を受けている。非常用食料等は高台にある職員宅で、3日以上を目安に備蓄している。	想定した津波到達時間が短いことから、利用者、職員の避難・救助が課題であり、今後とも、運営推進会議や家族会など、あらゆる機会に利用者の救助について話し合う機会を作っていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活全般におけるプライバシーに関する支援については、個人情報の保護、本人を尊重した声掛けを行い対応している。	利用者を尊重した声かけや、トイレ誘導時に自尊心を損なわない支援を心がけている。個人情報の保護については職員の理解が出来ており、職場、家庭、地域において適切に取り扱っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情や言葉をしっかり感じ取り、自己決定をしてもらえる環境づくりに配慮するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に生活し過ごしてもらえるよう個々のペースに合わせ、朝食も起床した順に摂って頂けるよう支援している。毎日決められたことをするのではなく、楽しく笑顔で過ごして頂けるよう、希望に沿ったケアを提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、大半が家族さんが定期的に持ってきてくださることが多い。好みの洋服を自分で選んで着替えをしている方もおり、選べない方については職員が対応している。毎月理美容の訪問があり、整髪できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昨年8月より法人内に配食サービス事業所が開設され、管理栄養士の立てた献立に沿った食材が届けられるようになり、珍しいメニューも提供できるようになった。入居者さんにはテーブルを拭いてもらったり、配膳、下膳のほか、野菜の皮むきや出来ることを手伝って頂いている。	法人の管理栄養士による献立と食材が配達され、事業所で必要な調理の工夫もできている。利用者は、野菜の皮むきやテーブル拭き、配膳、下膳を職員と一緒にやっている。喫茶店のモーニング、年に数回の外食等により変化を持たせ、職員は利用者と一緒に同じ食事を取って楽しい雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は管理栄養士の献立に沿って、バランスの良い食事を提供できている。水分量も主治医に確認し、個々に応じた水分量を提供できている。水分摂取の少ない方には、容器や飲み物を工夫し摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを促している。自力で出来る方はお願いしているが、後の確認は行っており、不十分なところは職員が行っている。義歯や歯の無い方はガーゼなどで対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方もおられるが、表情や動作で排泄のサインを出している方もおられるため、基本的にトイレで排泄が出来るよう支援している。声掛けにも工夫し、さり気なくトイレに促している。夜間はポータブルトイレを使用し対応している方もおられる。	トイレでの排泄を基本として支援を行っている。利用者のうち85歳以上の高齢者が7名あり、利用者の多くが紙パンツを使用している。表情や動作で尿意等のサインを察知して、羞恥や不安を与えないようにトイレでの排泄を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	配食サービスを利用しだしてヨーグルトが提供できなくなり、便秘をする方が出てきている。散歩や腹部マッサージを施行し様子を見ているが、便秘気味の方にはおやつとしてヨーグルトの提供を考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1度と3日に1度のペースで入浴を楽しんで頂いている。入浴を好まれない方には声掛けを工夫し、スムーズに入浴できるよう支援している。入浴予定になっていない時でも、状況に応じて柔軟に対応している。	利用者の希望により、2～3日に1回のペースで入浴している。毎日入浴を希望する利用者もいるが、現状の勤務体制では希望に添えない状況にある。入浴を好まない利用者には、声かけのタイミングや内容を工夫して入浴につなげるよう努めている。	入浴は職員の都合でなく、利用者一人ひとりに応じた支援が望ましいので、毎日の入浴希望に対する支援策を検討することを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを考慮し、昼夜のメリハリを付け昼夜逆転の生活にならないよう支援している。日中は思い思いの場所でテレビを視聴したり、他者との会話を楽しんだり、居室で休息したりして、ストレスにならないよう安心して過ごせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ケースと服薬専用ファイルに説明書を保管し、変更があればその都度差し替え、いつでも確認出来るようにしている。薬のセッティングは管理者が行い、副作用や容量・用法など、気をつける点は申し送りノートで職員間で理解できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	むり絵や壁画作りを楽しんだり、花の水やりや手入れを日課にしている。天気の良い日には屋外の椅子で日光浴をして過ごし、時折地域を車いすや徒歩で散歩するなどして、気分転換を図れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気候の良い時にはできるだけ屋外に出て周辺を散歩したり、近所の庭に花を見に出かけたり、個別ドライブの支援を行っている。自宅への外出支援も家族の了解を得て実行出来ている。	周辺は田畑が広がり、安全な散歩道があるので、天気のよい日は事業所周辺の散歩に出かけている。町民運動会や小中学校の運動会の見学、桜や菊、もみじ等四季折々の風景を見にいたり、また、年2回は利用者個々のふるさと訪問も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自分で管理していた時期も合ったようだが、無くなるなどトラブルが有り、家族の了解のもと管理者が預かり管理している。預り金は3万円までとしており、使途については毎月こづかい帳のコピーと領収書を送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時々家族へ連絡がしたい時があれば対応したり、家族から連絡があった時でも電話に出いていただいたりしている。携帯電話を所持している方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には花や置物を飾り、季節感を出している。壁面には入居者さんと職員で作った壁画を季節に応じて展示し、居心地の良い空間づくりを心がけている。季節の花を植え、楽しんでもらえるよう工夫している。	事業所は閑静で日当たりのよい場所にあり、室内は明るく、浴室や共用トイレなども清潔に管理されている。食堂兼居間は利用者が移動しやすい広さがあり、壁には季節の行事に合わせて折り紙の作品を展示している。机や玄関には生花を活けて、居心地の良い空間づくりが出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外には中学生が制作し、寄付してくれた長椅子を置いてあり、玄関先にはいつでも座って外の景色を楽しめるよう、椅子を配置している。ホールにも家族さんから貰い受けたソファや、飾り棚を配して個々に座る場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンスは、個人が使用していたものを持ってきて頂いている。家族が船員さんで不在の時期が長い方は、仏壇を居室に置き、夕食時に仏壇にお供えすることを日課とされている方もおられる。家族の写真や自作の飾り物などを壁に飾り、居心地の良い空間づくりを工夫している。	各居室には、使い慣れた品物の持参を勧めている。個人差はあるが、テレビ、タンス、家族写真、仏壇などが置かれ、利用者の思いの部屋になっている。各居室には備え付けの収納場所があり、広さを利用して居心地よく家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を書くことで自分の部屋と認識して頂いている。シルバーカー歩行の方も多く、出来るだけ自立できるよう支援している。歩行時には絶えず見守りし、行き先の確認をしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない